

林 土 連

NO. 282
RINDOREN KAIHO



令和7年度林野庁治山・林道工事コンクール 農林水産大臣賞受賞工事
黒瀬（ケ-22ほか）溪間工事 廣濱建設株式会社（大阪林業土木協会）

主な記事

令和9年度予算概算要求の概要
予算要望活動
第3回理事会の開催
会員からの声



令和9年度予算概算要求の概要

農林水産省は、7月21日に閣議決定された「経済財政運営と改革の基本方針2026（骨太の方針2026）」及び7月30日に閣議了解された「令和9年度予算の概算要求に当たっての基本的な方針」に基づいて、令和9年度当初予算の概算要求を行いました。

令和9年度予算は、補正予算依存の財政運営から脱却する方針や要求額の上限を設けない「強く豊かな日本投資枠」の創設といった新たな枠組みのもと、農林水産関係予算の概算要求額は対前年度比136.7%の約3兆1377億円となっており、このうち公共事業費は約9003億円（対前年度比128.1%）となっています。（表―1）

林野庁関係予算では、非公共を含む要求額は約3956億円で対前年度比127.1%となっており、このうち一般公共事業費は約2469億円で対前年度比130.0%となっています。（表―2）

また、「第1次国土強靱化実施中期計画」に係る経費、「総合的なTPP等関連政策大綱」を踏まえた農林水産分野における経費等については、予算編成過程で検討する事項要求としています。

森林整備事業では、林業適地における重点的な林道整備や豪雨、台風等による被害を受けた森林への整備、林道の強靱化等が主な内容となっています。

治山事業では、大規模災害の被害拡大防止に資する国直轄での集中的な復旧や生活環境基盤の確保に資する緊急輸送道路等への予防保全など治山対策の効果的・効率的な実施が主な内容となっています。

（表―1） 令和9年度 農林水産予算概算要求の骨子

総 括 表			
区 分	8 年 度 予 算 額	9 年 度 概算要求額	対前年度比
農林水産予算総額	22,956	31,377	136.7%
1. 公共事業費	7,026	9,003	128.1%
一般公共事業費	6,846	8,823	128.9%
災害復旧等事業費	180	180	100.0%
2. 非公共事業費	15,931	22,374	140.4%

（注）1 金額は、関係ベース。
2 計数整理の結果、異動を生じることがある。
3 計数は、四捨五入のため、端数において合計とは一致しないものがある。

（表―2） 令和9年度 林野庁関係予算概算要求の概要

区 分	令和8年度 当初予算額	令和9年度 概算要求額	対前年度比
公共事業費	1,992	2,562	128.6%
一般公共事業費	1,899	2,469	130.0%
治 山 事 業 費	628	816	130.0%
森林整備事業費	1,271	1,653	130.0%
災害復旧等事業費	93	93	100.0%
非公共事業費	1,120	1,393	124.5%
合 計	3,112	3,956	127.1%

（注）1 上記のほか、農山漁村地域整備交付金の中で、林野庁関係事業を措置している。
2 金額は、関係ベース。
3 計数は、四捨五入のため、端数において合計とは一致しないものがある。
※ 「第1次国土強靱化実施中期計画」に係る経費、「総合的なTPP等関連政策大綱」を踏まえた農林水産分野における経費及び「食料安全保障強化政策大綱」を踏まえた食料安全保障の強化に向けた対応に係る経費については、事項要求として予算編成過程で検討。

森林整備事業＜公共＞

令和9年度予算概算要求額 165,273百万円（前年度 127,133百万円）

＜対策のポイント＞

森林吸収源の機能強化や国土強靱化、森林の集積・集約化の加速化に資する、間伐、主伐後の再造林、林道の開設・改良等の推進に加え、林野火災対策、クマ類対策、花粉発生源対策としての伐採・植替え、路網整備等を推進します。

＜事業目標＞

- 人工造林面積 3.5万ha(令和6年度)→ 4.5万ha(令和12年度)
- スギ花粉の発生量の削減（令和2年度比 約2割削減〔令和15年度まで〕、5割削減〔令和35年度まで〕）

＜事業の内容＞

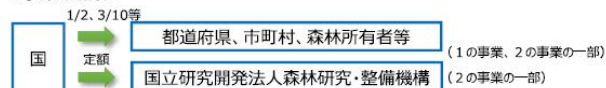
1. 間伐や再造林、路網整備等

- ① 省力化・低コスト化を進めつつ、間伐や再造林等の適切な森林整備を推進するとともに、基盤となる林道の開設・改良等を推進します。
- ② 森林資源の循環利用に向け、林業適地における重点的な林道の整備や確実な再造林等を推進します。
- ③ 花粉発生源対策として伐採・植替え、路網整備等を推進します。

2. 豪雨・台風等による被害を受けた森林の整備、林道の強靱化等

- ① 豪雨・台風等による被害を受けた森林や奥地水源林、重要インフラ施設周辺の森林等について、市町村等の公的主体による復旧・整備を推進するとともに、防災上重要な幹線林道の整備を推進します。
- ② 林野火災対策として、防火機能の高い林道や延焼防止に資する防火林帯の整備を推進するとともに、クマ類等の対策として、人の生活圏への出没防止に向けた緩衝林帯の整備や、生態環境整備のための広葉樹林化等を推進します。

＜事業の流れ＞



※ 国有林においては、直轄で実施

(注) 上記要求額のほか、事項要求

＜事業イメージ＞

間伐や再造林、路網整備等



豪雨・台風等による被害を受けた森林の整備、林道の強靱化等



【お問い合わせ先】 林野庁整備課 (03-6744-2303)

治山事業＜公共＞ 令和9年度要求のポイント

令和9年度予算概算要求額 81,619百万円（前年度 62,784百万円）

＜対策のポイント＞

豪雨や地震等に起因する山地災害から国民の生命・財産を守るため、大規模災害の被害拡大防止に資する国直轄での集中的な復旧整備、まとまったエリア・期間における総合的な防災・減災対策、山地災害を未然に防止し、生活環境基盤の確保に資する緊急輸送道路等への予防保全など、治山対策を効果的・効率的に推進します。

＜事業目標＞

周辺の森林の山地災害防止機能等が適切に発揮された集落の増加（約58.1千集落〔令和5年度〕→約60.5千集落〔令和10年度〕）

＜事業の内容＞

1. 大規模災害の被害拡大防止に向けた国直轄による集中的な復旧整備

複合的な要因による山地災害など、同一地域における大規模災害等による被害の拡大を防ぐため、災害復旧等事業に引き続き、再度災害の発生を防止するため集中的な復旧整備を国直轄で実施します。

2. 社会情勢の変化等を踏まえた治山対策の推進

- ① 山村地域に住む居住者の安全・安心のため、山地災害を未然に防止し、生活環境基盤の確保に資するよう、緊急輸送道路、迂回路の無い道路及び津波避難路への予防保全対策を推進します。

このほか、農山漁村地域整備交付金において、

- ② 気候変動の影響による極端な大雪時の被害に備えるため、なだれ危険箇所における、なだれ防止施設の機能強化・老朽化対策を推進します。
- ③ 地域の防災力強化に向け、まとまったエリア・期間を設定し、地域との調整により策定した全体計画に基づく治山施設の設置と合わせた各種対策による総合的な防災・減災対策を実施します。

〔関連事業〕特殊地下壕対策災害関連事業

治山施設等の復旧に伴い対策が必要な特殊地下壕等の埋め戻し、防災処理等を実施するものについて、実施期間を令和13年度まで延長します。

＜事業の流れ＞



※ 国有林、民有林のうち大規模な山腹崩壊地等においては、直轄で実施

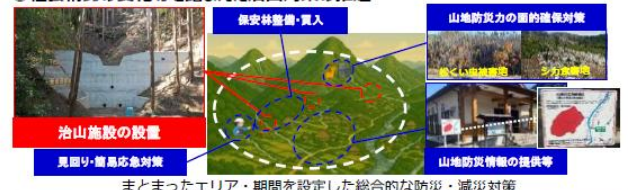
(注) 上記要求額のほか、事項要求

＜事業イメージ＞

○大規模災害の被害拡大防止に向けた国直轄による集中的な復旧整備



○社会情勢の変化等を踏まえた治山対策の推進



【お問い合わせ先】 林野庁治山課 (03-6744-2308)

令和9年度予算の要望活動を実施

7月17日（金）、都内会議室において実施した林土連三役会議で令和9年度予算の要望書を決議し、会長、副会長が農林水産省に出向いて林野庁幹部等に予算の要望を行いました。

小坂善太郎林野庁長官には担当秘書を通じて、また谷村栄二次長、清水浩太郎林政部長、齋藤健一森林整備部長、長崎屋圭太国有林野部長にはそれぞれの執務室で直接要望書をお渡しするなどし、意見交換を含めて要望を行いました。

各幹部からは、林土連の予算確保に関する要望活動や災害発生時の迅速な対応への感謝の言葉とともに、建設資材の高騰や人件費が上昇する中、林野公共事業予算の確実な確保に向けて林野庁あげてしっかりと取り組むといった発言がありました。

また、来年度予算要望に併せて、安全衛生経費の適切な確保に関する



谷村林野庁次長(中央)に要望



長崎屋国有林野部長(中央)に要望

る要望を業務課長に行い、意見交換を行いました。

林野庁幹部の皆様には、大変お忙しい中にもかかわらず、予算確保や各種施策の取り組みに対する意見交換の場を設けていただき、改めて感謝申し上げます。

林土連では、林野公共事業予算の拡充・確保に向けて、関係機関等に対する要望活動を引き続き実施してまいります。

森林整備・治山事業促進議員連盟 総会が開催される

8月28日（金）に、今年度2回目となる森林整備・治山事業促進議員連盟の総会が自由民主党本部の会議室において開催されました（第1回目は、5月26日（火）に開催され、林土連から嶋崎勝昭会長が出席）。

この総会には、山口俊一議連会長をはじめ35名の国会議員（代理出席を含め約97名）が出席されました。

農林水産省からは根本幸典副大臣と山本啓介政務官、林野庁からは長崎屋圭太長官をはじめ、関係する幹部が出席されました。

さらに、関係団体から、（一社）日本治山治水協会、（二社）全国森林土木建設業協会、全国森林組合連合会



山口議連会長



根本農林水産副大臣



嶋崎会長

の会長及び専務理事等が出席する中、当協会からは嶋崎勝昭会長、堂本 整専務理事が出席しました。

総会では、山口会長から「熊本地震、線状降水帯による豪雨、台風等により全国で災害が発生しており、対策をしていかなければ日本列島が大変なことになる。予算編成のあり方が変わる中で、農・林・水の議連の連携も含め、年末に向けて氣勢を上げて予算要求していく必要がある。皆さんと一緒に頑張っていききたい」とのご挨拶がありました。

続いて、根本農林水産副大臣の激励のご挨拶の後、全森建の山藤会長、当協会の嶋崎会長、全森連の中崎代表理事会長が要望陳述を行いました。

嶋崎会長は、「今年も熊本地震や相次ぐ台風の襲来、さらには線状降水帯による集中豪雨など、全国各地で甚大な自然災害が発生している。これから本格的な台風シーズンを迎える中、さらなる日本への影

響も懸念される。地方においては、治山・林道施設の整備や災害復旧など、迅速な対応が必要となる箇所が増加しているにもかかわらず、事業量は十分に確保されていない。国土強靱化の着実な推進とともに頻発・激甚化する自然災害から国民の生命・財産を守るため、林野公共事業予算が大幅に増額されるよう引き続き力強いご支援を賜りたい」と訴えました。

次に、齋藤森林整備部長より、森林整備事業・治山事業の推進について説明があり、その後、意見交換を行い決議文が採択されました。また、9月9日（水）には、採択された決議文をもって山口会長をはじめ13名の国会議員が片山さつき財務大臣を訪れ、林野公共事業予算の確保について申し入れを行いました。



議連総会の様子



山口会長はじめ13名の国会議員が財務大臣へ予算要望

第3回理事会を開催

9月8日（火）、令和8年度第3回理事会を都内会議室において開催しました。

冒頭、嶋崎会長から「今年も熊本地震や線状降水帯の度重なる発生に伴う集中豪雨等により、各地で多くの被害が発生した。応急復旧工事や国有林防災ボランティア活動への会員の皆さまの尽力に感謝申し上げます。このような中、先月28日に



嶋崎会長

「森林整備・治山事業促進議員連盟」の総会が自民党本部で開催された。山口俊一会長をはじめ多くの国会議員や林野庁長官など多数の林野庁幹部が出席する中、林土連からは、近年の異常気象に伴う豪雨災害などにより治山・林道施設の整備や災害復旧等の迅速な対応が必要となる場面が増えているにもかかわらず、事業量は十分に確保されていない。頻発・激甚化する自然災害から国民の生命、財産を守るためにも林野公共事業予算の大幅な増額が必要不可欠であると訴えたところ。しかしながら、8月末に示された令和9年度予算の概算要求では林野公共事業予算は対前年度比130%となっているものの、事項要求として扱われているTPPや国土強靱化に関する予算額を令和7年度の補正予算と同額として加えて比較すると対前年度比120%程度となり、昨今の人件費や建設資材の高騰を踏まえるに必要な事

業量の確保には決して十分とは言えない厳しい要求と受け止めている。林土連としては、今後、強く豊かな日本投資枠の活用も視野に入れながら林野公共事業予算の増額に向け、引き続き関係方面に対してしっかりと要望活動を行ってまいりたい。会員の皆さまにおかれても引き続きのご支援・ご協力をお願いしたい」旨の挨拶がありました。

林野庁からご出席いただいた木下 仁国有林野部長からは「日頃より災害発生時の調査要請への貢献や、応急復旧への会員企業の協力に感謝申し上げます。令和9年度予算については事項要求も含め、予算確保に向けて努力してまいりますので会員企業の皆様には引き続きのご理解とご支援を賜りたい。選ばれる森林土木については、今年9月からスタートした第3期計画に基づき、引き続き関係団体の意見も伺いつつ受注環境の改善や現場業務の効率化、省力化に向けて取り組みたい。労働安全の確保については事業実施における最優先事項と考えており、安全性を確保するために必要な経費については、的確に設計に反



木下国有林野部長



理事会の状況

映させるなど、事業実行体制の確保に万全を期してまいりたい。会員企業におかれても労働災害の未然防止、とりわけ重大災害の根絶に尽力をお願いしたい」旨のご挨拶をいただきました。

理事会は、定款に基づき嶋崎会長が議長となり、堂本専務理事が資料の説明を行いました。

審議事項は次のとおりです。

(1) 令和8年度林土連技術現地研修会の開催について

10月20日(火)～21日(水)、新潟県新潟市において技術現地研修会を開催することを決定し、前橋林業土木協会の協力のもと準備を進めることが承認されました。

(2) 林土連青年交流会発足検討委員会の活動について

これまでの検討委員会の活動報告及び意識調査の実施と結果分析並びに今後の検討方針について説明があり、議案のとおり決議されました。

この他、堂本専務理事から、

- ① 令和8年度前半の業務執行状況報告
 - ② 令和8年度技術・安全対策実施方針
 - ③ 令和8年林土連コンプライアンス講習会等の開催
 - ④ 自由民主党森林整備・治山事業促進議員連盟の総会
 - ⑤ 令和9年度林野公共事業予算に関する要望活動
 - ⑥ 「GREEN×EXPO 2027」開催への協賛金支出
- などについて報告、説明を行いました。

理事会終了後は、林野庁の岡村篤憲業務課長からご挨拶に続き8月末に財務省に提出した令和9年度予算概算要求の概要についてご説明をいただき、続いて藤原企画官から、治山・林道事業を巡る諸情勢等についてご説明をいただきました。

ご多忙の中、会場にお越しいただきご説明をいただいた岡村業務課長、藤原企画官には、改めて御礼を申し上げます。



岡村業務課長



藤原企画官

第25回コンプライアンス委員会を開催

9月8日の第3回理事会に併せて、第25回コンプライアンス委員会を都内会議室で開催しました。

今回の委員会では、令和8年度事業計画に基づき、来る11月17日

(火)にコンプライアンス講習会を開催することを決定しました。

このほか、令和7年度に各協会が実施した社会貢献活動について、冊子を発行し関係機関に配布したと、特に優秀な取り組み3点(札幌協会、名古屋協会、九州協会)を選定し表彰を行ったこと、各協会の活動を林土連のホームページに掲載して情報発信していることなどを報告しました。

コンプライアンス活動は、企業の法令遵守と信頼を守り育てるため、継続的な取り組みが不可欠であることから、林土連では各協会と協力しながら引き続き活動していくこととしています。

事務局長会議を開催

9月9日(水)、都内会議室において事務局長会議を開催しました。例年、この時期に開催される理事会に併せて開催しているこの会議には、各協会の事務局長が出席し、それぞれの業務に関する知識の向上と相互理解を深めました。

会議では、10月に新潟県新潟市で予定している林土連技術現地研修会の流れや留意事項等について、前橋林業土木協会の坂本和隆事務局



コンプライアンス委員会の状況



事務局長会議の状況



赤羽治山課長

長から説明が行われました。

また、会議の中で例年開催している外部講師による講演会では、今年には林野庁の赤羽 元治山課長を講師にお迎えし、「治山事業の現状」と題して今年3月に取りまとめられた気候変動や社会情勢の変化を踏まえた今後の治山対策のあり方検討会における今後の施策の方向性の取りまとめ内容やこれらの施策の方向を踏まえた令和9年度予算の概算要求についてご講演をいただきました。

講師を務めていただいた赤羽治山課長には、改めて厚く御礼を申し上げます。

会員からの声

トムラウシ沢林道改良工事における

ICT施工について

西江建設株式会社

代表取締役社長 西江 靖幸

(帯広林業土木協会)

弊社は北海道帯広市に本社を置き、1953年(昭和28年)の創業以来、河川改修、道路改築(橋梁・トンネル・覆道)、農地整備、治山林道、上下水道施設、高速道路や北海道新幹線など、社会基盤整備を通じて地域住民の安全・安心と地域経済の発展に貢献してまいりました。本年度創業73年を迎え、社員85人が一丸となり、「働き方改革」「ICT活用」「女性活躍」「担い手確保」を重点課題として、生産性向上と魅力ある建設業の実現に取り組んでいます。これまでに各発注官庁から数ある賞をいただいた中で、令和4年度には令和3年度施工の「湯擬谷第1分線林道(林業専用道)新設工事」が農林水産大臣賞を受賞しています。令和5年度には令和4年度施工の「成田の沢治山工事」が林野庁長官賞を受賞しています。

今回紹介する「令和7年度トムラウシ沢林道改良工事」は、平成28

年8月の北海道豪雨災害により被災した林道を復旧する工事です。平成28年8月17日から23日の一週間に3つの台風が北海道に上陸し、さらに、8月29日から31日にかけて台風10号が北海道に接近し

記録的な豪雨をもたらしました。8月17日から31日までの総降水量は、現場から約5^{キロメートル}離れた伏見観測所において771^{ミリ}を記録し、トムラウシ沢林道も大きな被害を受けました。

トムラウシ沢林道は、日高山脈襟裳十勝国立公園内に位置し、豊かな森林の適切な維持・管理や、木材の伐採・搬出に利用される重要な林道です。また、多くの登山者が訪れる伏美岳の登山口へ通じる路線でもあることから、地域の森林管理のみならず、登山者の安全な通行を確保するためにも早期復旧が強く望まれていました。

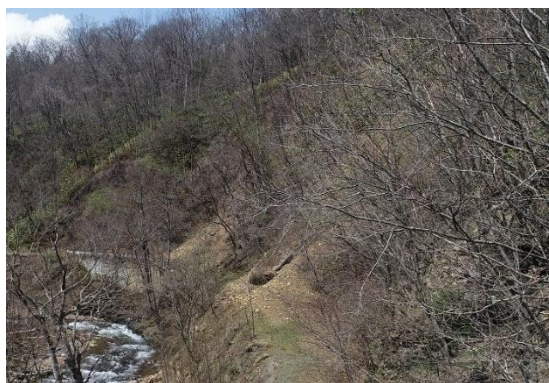
工事では、法面崩落箇所約900立方メートルの土砂撤去に加え、オーバーハングした約300立方メートルの土砂を人力で法切りし、約3300平方メートルの落石防止金網を施工しました。急峻な法面での作業であったため、測量方法や切土量の算出、施工基面の出来形管理をいかに安全かつ効率的に行うかが大きな課題でした。



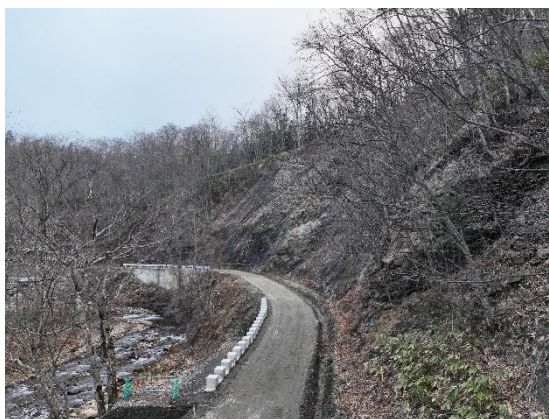
着手前全景 U A V 撮影 (空撮)



完成全景 U A V 撮影 (空撮)



着手前起点から地上撮影



完成後起点から地上撮影

従来の測量では、施工箇所上部の立木に親綱を設置し、作業員がロープを使用して急斜面を移動しながら測量を行う必要があります。この方法は多くの時間と労力を要するだけではなく、滑落や転倒、浮石の落下、法面崩壊などの危険を伴います。このようなことから、本工事では受注者希望型ICT活用工事として、3次元で起工測量・設計データ作成・出来形管理及びデータ納品を監督員へ提案し、協議を重ねながら導入しました。

起工測量では、無人航空機(UAV)搭載型レーザースカナーを活用しました。人が立ち入ることが困難な危険区域でも安全に広範囲を計測できるほか、現場全体を点群データとして取得できるため、高精度な地形把握と数量算出が可能となりました。

取得した点群データから3次元設計データを作成することで、従来の平均断面法より精度の高い土量計算を自動で行い、設計変更資料と

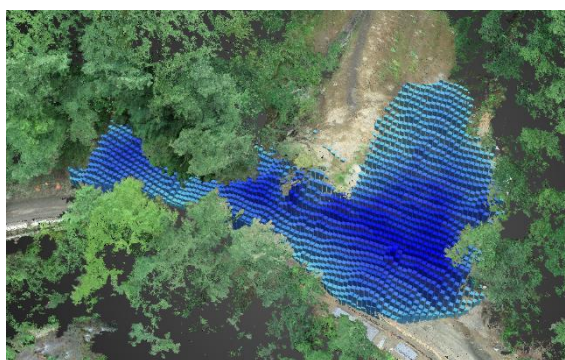
して活用しました。また、横断面の作成も容易となり、人員と作業時間を大幅に削減するとともに、施工前には支障物との干渉確認も行うことができました。

出来形管理では、UAVレーザースカナーにより取得した点群データからヒートマップを作成し、出来形の異常箇所を面的に把握しました。この方法は、現場全体を高精度に記録できるため、品質

管理の向上にも大きく寄与しました。さらに、3次元データは視覚的に分かりやすく、完成形を関係者間で共有できることから、認識の相違を防ぎ、円滑な施工管理につながりました。

その結果、従来どおりの測量・出来形管理では5人工で15日を要すると試算された作業を、ICT施工では2人工で約2.5日で完了し、約90%の省力化を実現しました。また、危険箇所への立入りを大幅に削減できたことで、安全性の向上にも大きく貢献しています。

ICT施工は、省力化だけではなく、生産性・品質・安全性の向上、コスト縮減、そして働きやすい労働環境の実現につながる重要な技術です。今後も弊社ではICT技術を積極的に活用し、高品質な社会資本整備を通じて地域社会に貢献するとともに、建設業の持続的な発展と次世代を担う人材が活躍できる環境づくりに取り組んでまいります。

崩土除去前UAV測量取得点群データ
(青色の箇所が900m³土砂撤去箇所)

● ● ● ●
協会の主な動き
● ●

6月1日（月） 事務局長定例会議（リモート）

7月6日（月） 事務局長定例会議（リモート）

7月17日（金） 林土連三役会議（海運クラブ）

8月3日（月） 事務局長定例会議（リモート）

8月28日(金) 森林整備・治山事業促進議員連盟総会

(自民党本部)

9月8日(火) 第3回理事会、三役会議(海運クラブ)

第25回コンプライアンス委員会

9月9日(水) 事務局長会議 (DAYS赤坂見附)

● ● 今後の予定 ● ●

10月2日（金）
第2回技術・安全委員会

(山王グランドビル共用会議室)

10月20日（火）
林土連技術現地研修会（新潟市）

5
21
日
(水)

11月16日（月） 技術担当者連絡協議会（DAYS赤坂見附）

11月17日（火） コンプレイアンス講習会（DAY5 赤坂見附）

労働災害防止研修会（DAYS赤坂見附）

11月18日（水）
2026 治山・林道のつどい（海運クラブ）

12月8日（火） 第4回理事会、三役会議（海運クラブ）

令和9年

1月21日（木） 第1回理事会、三役会議（海運クラブ）

第26回コンプライアンス委員会

2月17日（水）令和9年度定時総会

(ホテル グランドアーク半蔵門)

7月14日（水）
林土連三役会議（ホテルポール麴町）

9月7日（火） 第2回理事会、三役会議（ホテルポール翹町）

第27回コンプライアンス委員会

9月8日（水）事務局長会議（DAYS赤坂見附）

11月24日（水）
2027 治山・林道のつどい

(ホテルポール麴町)

11月25日(木) コンプライアンス講習会(DAYS赤坂見附)

労働災害防止研修会（DAY5赤坂見附）

11月25日（木） 技術担当者連絡協議会（DAYS赤坂見附）

12月8日（水） 第3回理事会、三役会議（ホテルポール翹町）

● ● 林野庁人事 ● ●

◎ 7月31日付け及び8月6日付けで林野庁及び森林管理局・署の人事異動がありました。益々のご活躍をお祈り申し上げますとともに、引き続きご指導を賜りますようお願い申し上げます。

(掲載は森林土木関係者のみ、敬称略)

7
月
31
日
付
け

【林野庁関係】

森林整備部治山課長

赤羽 元

關東森林管理局長

增井 国光

8月6日付け

【林野庁関係】

林野庁長官

長崎屋圭太

林野庁次長

清水浩太郎

林政部長

望月 健司

国有林野部長

木下 仁

◎ この夏、再び熊本を襲った巨大地震、頻繁に接近・上陸した台風などの影響による豪雨など、自然災害は各地に甚大な被害をもたらしました。加えて、猛暑が復旧活動や避難生活に大きくのしかかり、被災地は一層過酷な夏となりました。

気象庁が発表した6月～8月の天候のまとめによると、全国の平均気温は、1898年の統計開始以降で5番目の暑さだったとのこと。また、最高気温40度を超える「酷暑日」が計10日、延べ36地点あり、これは統計史上最多とのこと。

地域によつては比較的涼しい時期もありましたが、総じて今年も暑かった夏、被災地の日も早い復旧を祈ります。

◎ めざましい発展を続けるAⅠは、土木工事の分野においてもその活用により施工管理や設計の最適化、安全作業の監視で導入が進み、

現場作業の効率化や自然災害の予測精度が向上すると期待されています。また、作業環境の厳しい森林土木の現場においては A I 等の活用により、安全な作業環境への改善が期待されます。

これから現場作業が最盛期を迎える中、安全は事業実施の上で最優先という意識のもと、会員の皆さまには安全対策についても一度見直すなど、労働災害の未然防止に努めていただきますよう、改めてお願い申し上げます。

日本林業土木連合協会

東京都千代田区永田町二―一四―二

山王グランドビル三階

(TEL) 〇三―三五八一―七七〇四
(FAX) 〇三―三五八〇―八四〇三

http://rindoren.or.jp
発行者 堂本 整

